

だいたい3ヶ月程度の治療で入院が終えられる時代になつてきて、当院の場合、平均入院期間は40〜50程度におさまっています。救急で入つてきて、当初はすごく興奮したり、強い不安を抱えていた患者さんが、どんどん症状を改善されて、穏やかな表情で退院されていく。その変化を見ることが、何よりのやりがいですね。

**Q** 入院期間が短くて済むようになったのは、治療薬が発達してきたからですか？

**寺谷** それも大きな理由だと思います。あとは、地域での受け入れ体制も整備されてきて、「長期入院をなるべくなくそう」という世の趨勢になつてきたこともありますね。

**南條** 診療報酬の規定で、「救急病棟への入院は3ヶ月まで」と決まっています。ですから、救急病棟に入院された患者さんが3ヶ月を超える治療を要する

患者さんに安心を与えることで

地域社会に貢献できていることが、

私の何よりのやりがいになっています。



「近畿一のブランド力のある  
治療システムを持つ病院づくり」

これこそが地域貢献だと考えています。

場合、ほかの病棟に移るようになります。ただ、当院の場合、ほとんどの患者さんは救急病棟からそのまま退院されます。つまり、3ヶ月以内に治療が終わるわけです。

**Q** なるほど。赤澤先生、南條さんにとって、精神科救急のやりがいという？

**赤澤** 精神疾患患者のご家族にとつていちばんつらいのは、患者さんの様子が急変して、どうしたらいいかわからないときだと思ふんです。そういうときに、断らずにいつでも救急受け入れをしてくれる病院があれば、ご家族も「ああ、助かった」とホッとできる。そういう安心を与える役割を、当院が担えている、地域のニーズに応えることができているということが、私の何よりのやりがいになっています。

**南條** 精神保健福祉士としての私の役割は、患者さんの治療の進め方のコーディネートであり、入院の窓口

になることです。たとえば、患者さんやご家族、他の医療機関からの入院依頼を電話で受けて、入院すべきケースか通院でよいケースかを判断して、入院すべきケースについては病床調整担当者に話をつないでベッドを確保します。そういう立場ですから、治療行為をするわけではないのですが、入院前の大変な時期に患者さんやご家族と接するので、そこから退院までどう変わられたかを目の当たりにします。寺谷看護師と同じで、患者さんの状態が大きく改善される様子に、いちばんやりがいを感じますね。

他の病院との連携を強める試み

**Q** ほかの病院と連携する「G・Pネット」という試みをなさっているとのことですが、これはどのようなものですか？

**赤澤** 「G」はGeneralist—一般医、「P」はPsychiatrist—精神科医の略です。つまり、当院と地域の総合病院が連携して、患者さんにとつていちばん適切な医療を提供するためのネットワークです。当院には内科もありますが、外科はないので、たとえば当院の患者さんが深刻な外科疾患を抱えた場合、うちで治療を継続することは難しい。逆に、総合病院に入院している患者さんが精神疾患を併発して、そこでは対応できないというケースもあります。そのように、双方の病院が連携することで治療がうまくいく場合が多々あるので、「困ったときには助け合いましよう」という協力体制を整えておくことはお互いにとって重要なことです。

**Q** 「G・Pネット」には、いくつぐらいの病院が参加しているのですか？